

令和3年度 土浦日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	<p>日本大学の建学の精神を礎とし、次の方針を掲げ、21世紀にふさわしい充実した学園生活を目指す。</p> <p>(1) 一人ひとりの志を大切にし、その実現を支援します。</p> <p>(2) 心身ともに健康でたくましく気品ある人を育成します。</p> <p>(3) 基礎学力の充実に徹します。</p> <p>(4) 積極的な進路指導に力を入れます。</p> <p>(5) 国際化・共生化に対応できる能力開発に努めます。</p>
-----------	--

本校の特徴および課題	<p>本校は、日本一のスケールと多様性や可能性を持つ総合大学、日本大学の付属高校であるという安定した基礎の上に、生徒一人ひとりの志を尊重し、その成就を支援する3コース5クラス制を敷いている。各コースの特色を活かして、1. 学力向上に関する取り組み、2. 進路指導に関わる取り組み、3. 学校生活に関わる取り組み、4. 生徒会・部活動に関わる取り組みなどを連携させ、生徒一人ひとりの目標にしっかり答えられるよう指導力の向上に、継続して努力したい。</p>
------------	--

令和3年度取組結果	<p>大学受験のための新学力検査「大学入学共通テスト」への対応を進めてきたが、制度の面では、結果として小幅な変更にとどまったため、十分な対応が可能であった。しかし、出題傾向の大幅な変化は、受験生の混乱を招いたところがあり、この後も引き続き文部科学省から提示されるであろう追加の変更などについても注視していきたい。日本大学付属高校推薦入学制度についても新システムへの対応が機能し、成果が出ている。さらに、新学習指導要領にあわせた新しい学習・進路指導に関する検討も計画通りに準備が終わり、振鈴・カリキュラムも完成した。これらに合わせ、表現力を高めるためのアクティブラーニングの実践、ICTを利用した教育活動もレベルアップをしていきたい。新型コロナウイルス感染拡大防止対策としても、ICT教育は活用方法の一層の研究を進めたい。進路実績も、日本大学への進学者数は目標を達成し、国公立大学への合格実績も例年と遜色ない結果となった。学校内のトイレの改修、右萩桜グラウンドの整備、体育館のエアコン設置などが終了。経年劣化への対応改修も着実に進展。感染症拡大防止対応のための機器設置なども含め、教育環境の充実も前進している。</p>
-----------	--

目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況	<p>A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された C：課題を多く残している D：成果が出ていない</p>
-----------------------	--

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動(教務)	①目標の設定について	ICT教育の推進を含め、教科指導力およびオンライン授業への対応力など、教員としての資質の一層の向上を目指す。	A
	②活動の実際について	全1年がiPadを購入し授業内外で活用するようになった。それに伴い、年度当初よりICT委員が作成した研修動画を若手やベテランの区別なく全教員が受講し、実際の授業実践を通して、多くの教員が授業や課外等でICTを活用できるようになった。その結果、8・9月の臨時休校期間も特段の問題なくオンライン指導で対応することができた。また、若手教員に向けた学級経営に対する研修も計画的に開かれ、ベテラン教員からのノウハウを受け継ぐ指導が行われた。外部会場での研修参加が困難な中、オンライン研修に参加する教員も増えてきた。	A
	③活動の点検について	ICTの活用に向けた研修をさらに進め、新任教員を含め、その情報・技術が内部で継承されていくようにした。今年度より導入したオンライン研修教材も活用し、新任教員研修をはじめとする様々な指導力の向上に反映させた。また、学級経営・学年経営についての研修も継続させ、いじめ防止や発達障害・不登校への対応も含めた、教員の対応力向上も引き続き確認した。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導(教務)	①目標の設定について	新学習指導要領に向けて、新カリキュラムと観点別評価の実施準備を進める。	A
	②活動の実際について	来年度より新カリキュラムおよび新たな振鈴の枠組みが決定し、実施される。4月より円滑にスタートできるよう、シラバスや時間割の準備を進めた。特に、新しく導入される観点別評価については、研修会および教科会を通して1年間かけて評価基準を作成してきた。また、ICTやアクティブラーニングに関する授業改革と、大学入学共通テスト対策としての定期考査問題改革も継続して実施しており、教員全体での共通理解も進んできた。	A
	③活動の点検について	全教員を対象にした研修会は実施できなかったが、教科主任会議や各教科会議およびオンライン研修等での検討を重ねながら、新カリキュラムにおける指導方法や観点別評価の基準を作成してきた。大学入学共通テスト対策などや定期考査問題改革については、昨年に引き続き教科内での検討を進めた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への配慮 (生徒指導)	①目標の設定について	①あいさつの励行 ②端正な服装頭髪の徹底 ③いじめの根絶 ④社会のルールやマナーの遵守	A
	②活動の実際について	①あいさつの励行：コロナ禍でのマスク着用，全校集会の行えない中，生徒指導部教員から生徒への声かけ等を通じて，互いに挨拶する雰囲気作りは出来てきている。まだまだ以前のような元気な挨拶になってこないが，校長先生を始め先生方が，毎朝登校時に挨拶の範を示してもらっている。あいさつ運動を行いながら今後の改善に期待したい。 ②端正な服装頭髪の徹底：大幅に逸脱をした生徒はほとんど居なくなっている。しかし，一部の生徒には継続的な指導が必要である。 ③いじめの根絶：コロナ禍もあり，コミュニケーションの取り方が上手く出来ない生徒が増えてきている印象がある。そのような中SNSを介しての人間関係のトラブルに発展するケースがあり，情報モラル教育についての指導に一層の重点を置いていく。 ④社会のルールやマナーの遵守：苦情については学校周辺の路上や近隣店舗駐車場での生徒送迎に係るものが主であり，登下校中の生徒のマナーについては良くなっている。上記のような状況が見られるが，多くの生徒はきちんとしており，トラブルやクレーム等も年毎に漸減している。	B
	③活動の点検について	定期的な指導部会議で問題点の共有を語る。生徒指導部教員や当番教員による登下校の立哨指導を中心に，ルール・マナーの指導を継続する。保護者宛メール文書にも現状の問題点など記載し理解，協力を継続的に促す。SNS利用に関するモラル向上に関しては，今後も重点項目として教育相談部やいじめ防止対策室と連携して指導を継続していく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
生徒会・部活動 (生徒指導)	①目標の設定について	生徒会活動や委員会の活動において，生徒が主体的な活動ができるようにする。	B
	②活動の実際について	昨年度に引き続き，コロナ禍の影響で生徒会活動，委員会活動，クラブ活動，応援活動などあらゆる活動が制限された年であった。その制限の中でアイデアを出し合いながら，出来ることを考えて実施することが出来た。特にオンライン目安箱などコロナ禍ならではの活動が出来た。引き続き出来る範囲の活動を継続し，状況を見ながら元の活動に戻していきたいと考えている。	B
	③活動の点検について	生徒会本部，各委員会の活動計画作成を促し，それに基づく主体的な活動を見守り，助言していく。 クラブ活動は，引き続き加入率の向上を促し，ホームページなどにタイムリーに情報を発信し，さらなる活性化を促していく。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	①日本大学付属推薦入試への適切な対応 ②国立大学、難関私立大学の合格者数の増加 ③推薦入試、調査書、進路統計、各種調査報告等への適切な処理 ④各種講演会の開催 以上の目標を掲げたが、概ね良好に運営でき、着実に成果を挙げた。	A
	②活動の実際について	①日本大学学校推薦型選抜（付属高等学校等）合格者数は307名となり、学園全体目標400名の3/4に達した。新制度への対応方法も浸透してきたが、教員の若返りの中、複数の担任が初めての3年生担任ということで、情報提供とその周知に腐心した。その結果、基礎学力テストの成績と進路希望を考えあわせながらの生徒・保護者との面談も、順調に進められたことで目標数の到達につながった。 ②前期日程発表までで過年度生を含み、国立大学合格者78名、筑波16名、茨城19名のほか、東京・徳島医学部にも各1名の合格者を出すことができた。難関私立大学合格者は早稲田15名、慶応3名、上智7名、東京理科14名、明治16名、青山学院9名、立教12名、中央9名、法政16名、学習院9名、国際基督教1名、日本大学にも一般入試で366名の合格者を出し、特進コースの3年生が少ない中、今年も進学校にふさわしい実績を残すことができている。私立大学の入学定員厳格化が大きな影響を及ぼす中、付属推薦を合わせた日本大学合格者662名という数字は、付属のメリットとして周辺私立高校から脅威と見られているはずである。担任を中心に各コースの3学年担当者による推薦入試対策指導は今年も実を結び、進路実績全体に大きな成果をもたらす形となっている。なお、通信制課程卒業生も1名、付属推薦で日本大学に進学する。 ③調査書や書類を発行については学年団、教務部、情報処理室、事務局と連携を取り、遅れることなく準備できた。進路希望調査もオンラインを使った入力形式で作業の効率化を実現できた。多様化する入試に対応するためにも、システム改善により、一層の効率化を図りたい。模試や基礎学力の分析は、進路指導に生かせる資料作成が出来た。感染症拡大の影響で縮小している大学入試改革に対しては、この後も情報収集を怠ることなく、注視していきたい。 ④コロナ禍ではあったが、日本大学出張講義や医療系講演会、法曹界講話など感染症対策を十分に実施し、オンラインも利用して開催することができた。父母と教師の会の各支部から依頼を受けている進路講演会は、今年度も開催できなかったが、付属推薦を含めた大学入試制度を説明する動画を編集し、それを視聴してもらった形で適切な進路情報を提供することができたと思っている。	B
	③活動の点検について	①日大の新付属推薦システムは、6年目を迎え一巡した事による慣れからのミスが発生しないよう注意確認を継続する。生徒・保護者の志望確認を確実にしていくことと同時に、若手担任教員への支援と情報提供にも引き続き努力する。 ②国立大学、難関私立大学合格者数増加のため、推薦入試に対する指導から、その内容や方法の点検を怠らないようにする。日本大学のN方式については、付属のメリットとして一般受験の生徒についても指導を確認する。 ③新課程に向けて、英語4技能に係る指導を、英語科・教務部と強化していきたい。調査書等の書類形式についても、教務部・情報処理室との連携を確実にして準備を進めたい。進路統計、各種調査報告等への適切な処理・運営については、これまでの形態に甘んじることなく、さらに改善を図っていく。 ④生徒対象の講演会は生徒の事後レポートを点検するととどまらず、ポートフォリオに蓄え、推薦資料としての活用に備えたい。休止している進路指導部教員による保護者対象進路講演会については、ここ2年間続く動画視聴の形態を検証したい。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
体育施設	①目標の設定について	教職員及び生徒の安全管理	B
	②活動の実際について	事務局と連絡を取り合いながら、補修を行うことができた。 また、新たに体育館にエアコンが設置された。体育科主任を中心とした利用と管理の形態も整え、運用が始まっている。生徒が活動しやすい環境の整備ができた。 破損箇所は、見つけるだけでなく「どうすればより良い活動ができるか。」を考え、けがや事故のない施設の管理を行うことができた。 右靱帯グラウンドの砂量の調整など、季節に応じて整備できた。	B
	③活動の点検について	事務局担当者と連携して、年間を通して施設を見回り確認管理を行った。また、老朽化だけではなく、ぶつかったりして破損するところを発見修理することができた。しかし、「壊れたら直す」の前に「壊れないように」使用する指導も行った。常に安全管理ができるように年間を通して見回ることができた。右靱帯グラウンドは、芝生が剥がれている箇所が教箇所あり、コースも砂量の違いのせいも、全てが均等になっていなかったため、季節も考えながら年間を通して整備できるように点検できた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
保健衛生	①目標の設定について	①感染症対策の充実を図る。 ②生徒及び教職員の健康の保持増進を図る。 ③教育環境の保健安全確保を図る。	A
	②活動の実際について	①昨年度に引き続き学校欠席者情報システムとコロナ感染防止対策としての欠席者情報の運用で、新型コロナウイルスによる感染の拡大防止に対応した。また、毎朝昇降口で教職員による生徒への検温・手指消毒の奨励を行った。 ②コロナ禍においても健康診断を、校医の先生方の協力により年間を通して実施することが出来た。生徒一人ひとりの健康状態を把握し、健康及び生活習慣の適切な健康指導を実施、保健室の適切な利用の啓蒙を継続している。 担任との連携を通して、悩み等の相談にカウンセリング室を利用し易い環境作りに取り組んでいる。コロナ禍の中でも相談できるようにオンラインでの相談も実施した。教職員の健康に関しても、年間計画の中で健康診断を実施し、健康管理及び生活習慣の改善等の助言を実施してきた。 ③産業医と衛生委員会を中心に、事務局との連携において学校環境の安全・安心のための環境整備、改修が長期計画の中で進められている。また、常時衛生委員会を中心に学校環境の安全・安心への対策配慮がなされている。 今年度に関しては、コロナ禍の中、現状を知ると同時に、感染症対策や健康管理についても話し合い、教職員への情報提供を行った。	A
	③活動の点検について	①欠席者について毎日情報を先生方で共有し問題なく順調に機能し、早期の対応ができていくか確認している。 ②産業医と保健室が連携し健康診断実施率は100%であり、事後措置も徹底されている。 ③衛生環境に関して、事務局より定期環境衛生検査等が専門会社において定期的に検査、点検が実施されている。事後措置も徹底されており、学校環境の安全・安心への対策がなされている。 ④保健室のセンター的役割を充実させて、生徒の健康・発達課題に対して教職員との連携を行い組織的な支援をとってきた。また、保健委員会が健康・精神衛生面での情報の提供等を実施し、感染症対策においても流行時期には予防等の情報や提案を通して流行拡大を防いできた。そして、当年度のコロナ禍に対し、現場対応が出来るだけの備品の備蓄をいち早く充実させたい。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	「生徒の学校生活への適応と、教員の不適応生徒への対応を支援する」という目標および、そのための①～⑨の取り組み方策の設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	①「新入生に対する教育相談ガイダンスの実施」については、計画通り行うことができた。構成的グループエンカウンターにおいては、新入生の仲間作りのきっかけとなった。 ②「学校不適応調査の実施」については、年間を通じて担任に学校不適応生徒の状況を入力してもらい、教育相談部会での支援策検討に活かすことができた。年6回行う予定の学年主任との情報共有は、新型コロナウイルス感染拡大によるリモート授業のため9月分ができなかったが、管理職とは情報共有することができた。それ以外の機会については予定通り情報集約・共有し、適宜対応した。 ③「高校生活に関する調査の実施」については、年3回の調査における教育相談に関する項目の結果を教育相談部会に活かすことができた。 ④「カウンセリングの随時実施」については、生徒や保護者の希望で実施したり、担任や教育相談部員、カウンセラーからの必要に応じて実施したりするなど、随時行った。休業期間中の対応として、電話やリモートによる相談も実施した。 ⑤「保護者との連携」については、新入生ガイダンスブックに「教育相談体制」を掲載し、学校ホームページに「カウンセリングだより」を定期的に掲載するなど、保護者への情報の周知に努めた。 ⑥「特別支援計画の立案」については、今年度は該当するケースがなかった。 ⑦⑨「スクールカウンセラーとの連携による担任支援」については、カウンセラーが毎日出勤する体制を整え常に情報を共有することで、不適応生徒やその対応に苦慮する担任を支援することができた。 ⑧「定期的な教育相談部会の開催」については、原則週2回実施することで各コース学年からの不適応生徒に関する情報を常に共有し、早期対応に努めた。	A
	③活動の点検について	担任が随時入力できる「学校不適応調査」の内容や、保健室を訪れる生徒の様子などを共有し支援策を検討する、教育相談部会は今年度通算44回の開催となった。こまめに開催することで、生徒の状況変化への対応や、新たに不適応傾向が見られる生徒への早期対応、生徒対応に悩む教員の支援などに繋げることができた。また、生徒の状況を年6回「要支援生徒リスト」としてまとめることで、すべての学年主任や管理職に報告し学校全体として共有した。 昨年度から、新型コロナに関わる体調不良と不登校との見極めが難しいことから不登校生徒への支援が遅れてしまう状況があるが、新型コロナの感染状況が好転しない限り今後も同様の状況が続くと想定され、今後の課題となる。また、年々児童相談所からの通報も増えており、社会全体で子どもを守るという観点からも、場合によっては保護者に対して毅然とした立場を取るべき学校の役割を再認識する必要がある。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	「本校いじめ防止基本方針に基づいて『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取り組みを実施し、学校を挙げて『いじめ根絶』の目標を達成する。」という目標設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	(1)「未然防止」について 生徒集会におけるいじめ防止講話は、コロナ禍のため2学期は中止となってしまったが、1・3学期は校内放送で全校生徒に向けた講話を行った。また、4週に一度のペースで「いじめの根絶」を生活目標として担任が講話を行い、いじめ防止を呼びかけた。4月には、新入生に向けてのネットモラル勉強会を行うとともに、新しい学級編成となる1・2年生に対して教育相談部・学年と連携して構造的グループエンカウンターを実施し、望ましい人間関係作りを支援した。 (2)「早期発見」について 年度初めの教職員会議で、全教員に対して「いじめ早期発見のためのチェックリスト」活用を呼びかけた。いじめ調査を学期ごとに実施したことに加え、2者・3者面談時に担任からいじめ被害の聴き取りを実施した。教員と生徒の信頼関係を構築する中で、軽微なトラブルも早期に相談できる雰囲気を作ることができた。 (3)「適切な対応」について アンケートや生徒・保護者から申し出のあった案件は、すべていじめ防止対策室の全体会議で取り上げ管理職へも報告した。いじめが疑われる事案については、客観的事実に迫れるよう複数教員が調査に当たるなど、慎重に対応することができた。今年度いじめ認定をしたのは4件である。いずれも重大事態には該当しない。 (4)「再発防止」について 今年度いじめ認定した4件のうち2件については、担任はじめ関係教員の適切な指導および保護者のご協力により加害生徒たちの反省に至ることができ、解消を確認することができた。他の2件については年度末に発生したため現時点で指導中であるが、解消が確認されるまで継続して指導していく。	B
	③活動の点検について	アンケート調査結果などによりいじめが疑われる事案のすべてについて、法に基づいて組織的に検討した結果、いじめと認定した事案は4件であった(昨年度3件)。関係教員の適切な対応により、いずれの事案も深刻化する前に把握・対応できたことから重大事態に発展することはなかった。今年度発生したいじめ事案を踏まえ、今後、コミュニケーション能力の欠如した生徒に対する支援・観察や、ICT教育を進める中のICT機器を用いたいじめの防止について、より強化していく必要がある。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
図書	①目標の設定について	①「わかりやすい書架サイン(分類表示)、タイムリーな展示・コーナーづくりを行う」②「視聴覚資料の整理と内容の充実を図る」という取り組み目標の設定は適切であった。	A
	②活動の実際について	①については以下の取り組みをした。 ・分野ごとにわかりやすい内容のサインを作成し、書架に表示する。 ・配架整理を進め、書架の棚にスペースを作り展示する。 ・展示書架だけでなく、図書館入り口、各階踊り場、カウンター等の目につきやすい場所にコーナーを設置し、定期的に内容を更新する。 ・時事に関する本、話題の本、お薦めの本など利用者の興味を惹く内容のものを展示する。 ・図書委員会で作成したポップを活用し、本を手に取りやすい工夫をする。 ②については以下の取り組みをした。 ・利用しないビデオを廃棄し書庫のスペースを空けるとともに、DVDへの入れ替えを行う。その際に、教科とタイアップした資料の購入に努め、授業での利用促進を図る。 ・PC検索時に視聴覚資料の内容紹介が分かると利用しやすいため、書誌情報の追加(内容の詳細)を行う。 ・文学作品(洋書含む)への導入のきっかけとなる映画化作品を揃える。 ・歴史や芸術の教養分野やドキュメンタリーを強化する。	A
	③活動の点検について	①書架サインについては、利用者が本を探す手がかりとなる「日本十進分類法」の第一次区分(類目標)を作成し掲示した。コーナーについては、世界情勢や国内の時事・話題に関する資料、行事に関する資料を展示した。タイムリーに紹介するため、旬の本の情報を得ることに努め、早期の購入装備を心がけた。長期休業前には図書館便りで各コーナーを紹介し、利用を呼びかけた。同年代の薦める本や新しい本との出会いのきっかけを作る狙いで、階段踊り場に設けた図書委員会のコーナーでは、図書委員会作成のポップを活用し図書の紹介を行った。また今年度は、3年生が国語の授業で作ったポップを図書館3階カウンター上に展示した。 ②視聴覚資料については、ギャラリーに配架してあるビデオを書庫へ移動する手続きを適宜行った。視聴覚スペースを確保するために、利用頻度の低い物・内容が変更されている資料は、積極的に廃棄することで保管場所の確保に繋げた。視聴覚資料の詳細が分かるよう、内容の紹介や各賞受賞の情報等、書誌情報の追加入力も行った。過年度分の資料については、時期を見て追加入力を継続したい。今年度は文学作品への導入のきっかけとなる映画化作品・歴史・ドキュメンタリーを強化した。劣化によりパッケージが破損しているものは交換を行った。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 (情報入試)	①目標の設定について	求める生徒像に合致する入学生を、今まで以上に獲得する入試広報活動への挑戦	A
	②活動の実際について	今年度もコロナ禍での広報活動となった。昨年度より成果が累積できているプログラムもあり、より充実したものになって視聴者に満足してもらえた構成になった。 海外入試においても、オンラインでのアドミッションズ・オフィス入試とアジア6会場での学力選抜入試の二本立てで実施ができたことは、生徒募集にとっても有効であった。 また、本校を第一希望として出願を考える受験生、保護者に対して個別面談を行った。これを募集要項に受験の手順として掲載し、出願前に本校教員との面談の機会を作ることで、受験生のモチベーションアップを図ることができた。受験に向けた話を個別におこなうこともできて好評を得られた。	A
	③活動の点検について	年間を通じて、毎週月曜日の1校時に打合せを行った。前週の活動、今週の活動の点検を行うことで、問題点等を話し合うことが出来た。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (教学)	①目標の設定について	「調和の精神を尊ぶ青年が育つ、活気あふれる進学校」を目指す。 A) いじめ防止対策推進, B) 国公立大学受験対策推進, C) 基礎学力到達度試験対策推進, D) 大学入試改革への対応, E) 新学習指導要領対応推進, F) ICT教育推進などによる	A
	②活動の実際について	A) いじめ防止対策室中心に、今年度も啓蒙と指導を展開した結果、県に報告するような重大事態の発生は今年もなかった。いじめに認定する事例は相変わらず多くがSNSを介したトラブルであり、“ネットモラル勉強会”などの対策を繰り返し・継続して指導することが求められる。 B) 特進コースでの、習熟度に合わせた指導と対応が効果を上げている。前期日程発表後で、北海道大学2名、東北大学各1名、筑波大学16名、茨城大学19名、医学部医学科1名、国公立大学合格者合計76名と、卒業生数が少ない中健闘したと考えている。推薦入試を積極的に利用した指導は継続していきたい。 C) 日本大学への推薦入学予定者は307名となった。対策室主導の集中講座や補習等はコロナ禍で十分に開講できなかつた面もあったが、今年度も一定の成果を上げることができた。生徒・保護者の希望を叶えるための出願指導も機能した。 D) 大学入試改革は、コロナ禍もあり民間試験導入延期など変更の縮小が示され、入試問題の出題方法の変更や、出願関係書類の変更も最小限となった。しかし、共通テストの出題傾向の大幅な変更などもあり、今後の動きを注視しながら、対策を継続させたい。 E) 新学習指導要領に合わせたカリキュラム案も整い、対応策はそれぞれ前進している。いよいよ新年度柄新入生が新カリキュラム生として入学する。教務部や情報処理室、新課程検討委員会など連携を密にし、魅力ある本校の教育があ打ち出せるよう運用していきたい。 F) 1年生からのICT機器導入が実現した。今年度もオンライン学習への取り組みが前進したが、さらなる内容の充実と利用方法のモラル定着を進めていきたい。	B
	③活動の点検について	どの目標に対しても、“PDCA”のサイクルを常に意識し、点検と改善に努める。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①諸規定の見直し②創立60周年記念事業にむけての準備③教育環境の充実・維持	B
	②活動の実際について	①諸規程全般について、社会的な要請、学校運営の現状等にあった形で必要に応じて改正を行い、新たな規程が必要な場合は制定する。諸規程文中に他の条項号が差し込まれている場合、正しくリンクされているかの確認も合わせて行う。 ②本学園は、令和5年度に創立60周年を迎えるが、記念誌の発行、記念品等を準備するための計画を推進し、それに向けた積立を各学校・幼稚園で実施していく。 ③教育環境の充実を図り、生徒が快適・安心を感じ、学校生活を送りやすいと実感する教育環境の整備を心がけていく。また、生徒の安全を第一義に考えて、必要な施設設備の整備については、優先的に取り組む。令和3年度については、近年の気候変動等により、暑熱環境が悪化し、授業・運動部活動等での熱中症事故の防止等、生徒の安全確保に向けた取り組みを強化することが急務であり、また、冬季の学校行事での更なる活用をするため、総合体育館に冷暖房設備を設置することができた。	B
	③活動の点検について	①各学校において、令和2年度から令和3年度にかけて令和4年度に施行される新学習指導要領に対応した教育課程に変更するため、学則の一部変更が行われた。また、高年齢者雇用確保措置を講じるための就業規則の一部変更を行い、社会的な要請、学校運営に必要な諸規程の見直しを行っている。 ②土浦日本大学学園創立60周年記念誌編纂委員を理事会で決定し、小委員会で各学校の取り組み状況を確認するなど、準備を進めている。記念行事の実施計画のなか、必要な資金の確保を行っていく予定である。 ③授業・運動部活動等での熱中症事故防止・冬季の怪我防止等、生徒の安全確保に向けた取り組みとして、体育館の冷暖房設備を設置し、運用を開始した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、父母と教師の会、後援会から図書室、特別教室等の共有スペースへの空気清浄機の設置、教室への二酸化炭素測定器の設置、機器等のメンテナンス用の掃除機を寄贈いただき、学校の日常的な感染防止策、必要に応じた消毒作業と合わせ学校と父母が一体となって新型コロナウイルス感染症への対応を行っている。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
庶務	①目標の設定について	再現性・継続性と物事の新調と作業整理	B
	②活動の実際について	昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルスの影響による新たな様式での実施を余儀なくされた。それぞれ創意工夫をしながらの実施だったが無事終えることができた。 終了した行事は精査し、次年度の運営にあたり年度内に改善する。問題点については次年度への引き継ぎ事項として作成している。前年度の終わりから次年度の初めに向けた式典等の準備・運営については、動きが止まることの無いよう進めていながら、すべての活動についての1年間の振り返りを行い、今年度行ったことを次年度再現するのか刷新するのかの検討をしていく。 部内の組織化は進んできている。適した人員配置と作業割り振りができている。部会も定期的に開き、庶務部関連行事の情報共有を行いスムーズな部署運営が行えている。	B
	③活動の点検について	各行事後に各係毎に意見をもらい、準備の効率化につなげられたかどうか引き続き点検していく。 施設の点検等事務局との連携を進めていく。 三会の会長との綿密な連絡と内容の確認を常に意識していく。 定期的な部会の開催で活動内容を確認していく。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
総合進学コース (含スポーツクラス)	①学習指導	<p>《進学クラス》 1年生：生徒の学習活動の中心となる授業にきちんと取り組ませるため、授業開始1分前着席を徹底した結果、授業への取り組み姿勢は、概ね良好であった。また、授業内容の定着と家庭学習の習慣化を目指し、スタディサプリEnglishを利用した課題の提示や朝テストを実施することで、知識の積み上げをすることができた。 2年生：授業と各種テストが連携していることや授業の重要性を認識させ、早い時期から受験生としての意識を持たせることができた。また、定期考査や模試後の振り返りとして、学習の取り組み状況や弱点の分析などを行い、学習計画の見直しと既習内容の復習・定着を図ることで、学習を習慣化させることができた。 3年生：学習時間を確保し、各種テストの自己分析をさせることで、弱点の早期発見と解決に努めることができた。また、「テスト→復習→課外」を徹底したことで、早い時期に受験を意識した学習習慣を身につけることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止策のため、基礎学力到達度テスト直前は登校を自粛する生徒が増えたが、対面授業とライブ配信を併用し、授業や課外を継続した。よって、登校している生徒だけでなく、自粛している生徒の学習リズムも崩すことなく基礎学力到達度テストを迎えることができたと考える。</p> <p>《スポーツクラス》 スポーツクラス：生徒個別の学力・性格などを把握することに努め、各生徒の個に応じた手厚い指導体制の構築を引続きめざしていく。学年教員・教科担当者・担任・運動部顧問で十分な連携をとり指導していく。</p>	B
	②進路指導	<p>《進学クラス》 1年生：卒業生講演会は開催を見送ることになった。また、大学のオープンキャンパスがweb開催となり、その利点を生かし何度も視聴することで、大学の学問への理解を深める事ができた。二者面談や三者面談、保護者会でのクラス懇談会を通じて生徒一人ひとりの希望や適性に合致した文理選択や科目選択をすることができた。 2年生：各種テストの成績や進路適性検査、高校生活に関する調査などの結果を受けて、定期的に面談を行い、様々な角度から助言を行うことで、進路や将来についての目標を明確にさせることができた。また、日大出張講義や医歯薬・医療系講演会などを通じて、大学での学問への理解や適切な職業観を養うことができた。 3年生：志望理由書や小論文の指導を通して、「将来の目標につながる学問とは何か」「将来どのような形で社会貢献できるのか」など目標をしっかりともてるような進路指導をすることができた。また、面接練習も複数の教員が携わることで、幅広い視野・意見を持たせることができた。学年で情報交換を徹底し、生徒に合わせた指導の結果、日本大学への付属推薦入試合格者は、297名・72.6%（進学クラス、279名・82.8%）となり目標を達成することができた。</p> <p>《スポーツクラス》 スポーツクラス：生徒個別の学力の把握に努め、それを基本としたホームルームでの進路指導をすすめた。進路ガイダンスや日大出張講義などを受けて、さらなる進路意識の向上に努めていく。日大基礎学力推薦・付属特別推薦・総合型選抜・公募推薦などあらゆる受験への対応を図り、生徒の充実した進路実現を追求していく。</p>	B
	③生徒指導	<p>《進学クラス》 多くの生徒が落ち着いた学校生活を送ることができていた。 自粛生徒やリモートの授業が増える学校生活においても、学年や教育相談部、教育カウンセラー、保健室等の各部署と情報共有をし、二者面談やこまめな声かけを定期的にすることで、生徒の把握・理解に努めることができた。</p> <p>《スポーツクラス》 スポーツクラス：大切な学校行事が中止になる中で、「今やれることを全力で」をモットーに、可能な限り教員と部活動顧問が連携を図り、生徒指導にあたってきた。また、メンタルトレーニングやZOOMを利用したホームルームなども必要に応じた利用を進めていく。</p>	B
	④特別活動指導	<p>《進学クラス》 新型コロナウイルス感染症の影響により、数多くの行事の中止が余儀なくされた。しかし、本来の形から縮小された形の文化祭やスポーツフェスティバルの開催を通して、友人とのコミュニケーションを図ることやクラスの絆を深めることができた。各種行事において、生徒それぞれが集団内での役割を自覚し、自ら判断して行動することができた。</p> <p>《スポーツクラス》 スポーツクラス：競技成績の向上はもとより、学校の活性化をリードするスポーツクラスの生徒として、一層の自覚と自主性を促していく。各種学校行事や部活動に率先して取り組み、他の生徒から信頼される生徒となるよう引き続き指導していく。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
特別進学コース	①学習指導	<p>難関大学に合格できる高い学力、専門分野への知的好奇心、ルール・マナーを守る社会性の3点を高めることを目的とした学習指導を行ってきた。特に、大学入学共通テストの実施に向けた定期考査改革と、次期学習指導要領に向けた探求型学習としてのインタレストラーニングを導入し、一定の成果が得ることができた。</p> <p>1 学年：オンライン指導を活用して学習量を確保し、基礎学力の定着を念頭においた指導を行った。課外授業では英語と数学に重点を置き、発展的な問題にも取り組ませた。外部模試では回を追うごとに成績の伸張が見られるなど、全体の底上げは図れてきている。探究型学習は、通常の授業ではできないような一つのテーマにそった深い学びができ、生徒の発表につなげることができた。</p> <p>2 学年：授業においては口頭試問・グループ学習を随時取り入れ、定期考査では思考のプロセスを問う出題を行うなど、知識偏重から思考力・表現力重視の指導を展開した。また、文系理系別の指導体制の開始に当たり、理科・地歴公民の学習体制を強化することで、専門科目が入試の得点源となるように指導した。学年の共通目標として「英検2級全員合格」「S Hクラス準1級全員合格」を掲げ、英語力の強化に努めた。</p> <p>3 学年：学校推薦型試験および大学入学共通テストを見据えた指導を早期より行った。特に、学校推薦型試験については出願者を早い段階で絞り込み、個別にきめ細やかな指導を展開した。東大・医学部志望者への課外授業は科目ごとの課題添削指導、医療系志望者へは小論文指導、筑波大志望者には論述対策指導、学校推薦型試験の志望者への志望理由書作成・過去問対策・面接指導などを重点的に実施することができた。</p>	B
	②進路指導	<p>大学入学共通テストおよび新学習指導要領を見据え、難関国公立大学・私立大学へ多くの合格者数を出すことを目標に、一般入試だけでなく、様々な入試形態（総合型選抜・学校推薦型選抜）に即した指導を柔軟に行った。その結果、国公立大前期合格段階で、国公立大学医学部医学科1名、筑波大学15名、茨城大学18名、国公立大学68名の合格者を出すことができた。</p> <p>1 学年：面談を通じて文理選択に向けて早期に学問研究を進め、入試改革の正しい理解と発信されている情報を精査し、それに対応する指導を実践してきた。インタレストラーニングを中心とした探究型学習を通して、知的好奇心を高める指導を行い、生徒自身の主体的な活動意識も高まってきたと思われる。</p> <p>2 学年：コロナ禍のため大学訪問やオープンキャンパスへの参加はできなかったが、オンラインでの研修会への参加や、各大学の学生募集の詳細などアンテナを高めて情報収集にあたり、高大接続改革に関わる新入試制度の生徒への周知を随時行った。その結果、学校推薦型選抜を早期に意識して専門分野への理解を深めようとする生徒も現れている。</p> <p>3 学年：学校推薦型入試を活用し、生徒の第一志望合格および国公立大学合格に繋げる指導を行った。また、個人面談を充実させ、進路希望に対する課題の掌握に力を注いだ。LHRを中心に入試制度についての指導を継続し、ミスなく受験に臨ませることができた。</p>	B
	③生徒指導	<p>挨拶の励行およびルール・マナーを守る社会性を身に付けることを念頭においた指導を行った。</p> <p>1 学年：場に合った服装や頭髪を常に意識させ、安易に流されることがないように指導した。また、SNSの使用については、個人情報の漏洩や他人への誹謗中傷などのトラブルが発生することの無いよう繰り返し指導した。いじめをテーマにした総合学習も実施したが、他者への配慮の大切さを理解するよう、指導をもう一段深めたかった。</p> <p>2 学年：挨拶・規律の徹底を図った。生活指導全般において、生徒に対しての遠慮や妥協は一切行わないが、一方的な指導ではなく、論理的に繰り返し説明し、生徒が理解した上で自発的な改善が図れるよう、知性に問いかける指導を心掛けた。</p> <p>3 学年：社会の一員としての自覚ある言動と行動の確立を目標に掲げた。受験を控え、学習や進路への悩みを抱える生徒に対しては、保護者や教育相談部、スクールカウンセラーと連携を取りながら対応に当たった。</p>	C
	④特別活動指導	<p>1 学年：総合学習ではネイティブ教員による発話・スピーチ指導を行い、主体性の育成に努めた。また、インタレストラーニングにより探究的に学ぶ活動を通して、協働して課題を解決する喜びを実感することができた。</p> <p>2 学年：コロナ禍で修学旅行が延期となり集団活動をできる場が大きく減ったが、文化祭や体育祭など学校行事に積極的に取り組ませた。その結果、集団への帰属意識を養い、友人と協力して一つのことを成し遂げる達成感を体験することができた。</p> <p>3 学年：志望理由書の作成など進路学習を中心に学問的な興味関心につながる課題について調べたことで、学校推薦型選抜や一般入試に向けた基礎を確立することができた。また、これらの活動を通して級友との絆や自己の進路への意識を深めることができた。</p>	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
グローバル・スタディ コース	①学習指導	実践的英語力・論理的思考力の基礎を身につけ、問題解決能力を向上させることが目標である。 1 学年：アクティブイングリッシュにおけるプレゼンテーションを通じて、論理的思考力を養うことができた。また新書の講読と論文指導により、クリティカルシンキングの基礎を身に着けることができた。英語能力向上では英検を準1級4名、2級15名が獲得している。 2 学年：アクティブイングリッシュにおけるディベートを通じて、論理的思考力及び批判的思考力を養うことができた。英検は準1級6名、2級22名が資格を得ることができた。 3 学年：アクティブイングリッシュにおいて高いレベルの論理的思考力及び批判的思考力を養うことができた。推薦入試に向けた準備は順調に進み、問題解決能力の醸成ができたと考える。日大基礎学力到達度テストへの適応もできた。英検は1級1名、準1級8名、2級を21名が取得、力をつけて卒業させることができた。	A
	②進路指導	コースの持つ特性を生かし、生徒の進路意識を学年ごとに高め、社会に対する興味関心も深めることで、推薦入試を上手に利用した進路指導を目指している。 1 学年：LHR、総合学習、オーストラリア短期留学代替オンラインプログラムを通じて、生徒一人ひとりの興味関心のある分野への探究を促すことができた。 2 学年：LHR、総合学習、カナダ中期留学代替オンラインプログラムを通じて、生徒一人ひとりの興味関心のある分野への探究を促し、行動開始させることができた。 3 学年：推薦入試に向けた指導を早期に開始し、各種作文の添削指導、面接指導を回数を重ねて実施し、例年と遜色ない成果が得られた。一般入試に対する受験対策指導も一定の成果を残すことができた。進路先は、上智5名、ICU1名、東京芸術1名、日本10名、そして海外大学1名などの実績が出ている。	A
	③生徒指導	身だしなみを整え、グローバル意識を持って生活することを目標にしている。 SNSに関するトラブルに関しては、解決に時間を要したが、その後は基本的に落ち着いた生活を送ることができた。服装・髪型については、もう一段高いレベルで規律を尊重する必要があると理解させたい。	A
	④特別活動指導	オンラインによる短期・中期留学を実施し、内容的にもオンキャンパスの留学に劣らないプログラムを構築することができた。コースの新たな特色のひとつとなり得る。運動部に所属するものも多いが、文化的な活動にも熱心に参加するものも多く、生徒会や委員会の中心となって活躍する者もいて、全般的に積極的な活動振りが目立った。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
情報処理	①目標の設定について	前年度からの継続案件も含め以下の3項目を当面の目標とした。 ①生徒タブレット導入に対応した環境整備 ②各校務分掌作成WEBシステムとデータ基盤の連携 ③ICカード導入に向けての調査・研究	B
	②活動の実際について	①教務部・ICT委員会・情報処理の三者が連携した、効率的な機器の保守やシステムの管理を行うことができた。 ②tngサーバー上では保護者ポータルサイト中心に連携機能を追加させたが、GoogleWorkspaceについてはの機能を充実させることができなかった。 ③2020年度に続きコロナ禍でWEB・オンライン関連のシステムの開発を優先したため、特段の進展は無かった。	C
	③活動の点検について	①教務部・ICT委員会・情報処理の三者の作業については、随時見直しを行いICT委員会の関与の度合いを高めてきた。	B